

徳島県

社会福祉士会だより

一般社団法人 徳島県社会福祉士会 広報誌
Tokushima Association Of Certified Social Workers

VOL. 28

これからの地域共生社会を担う
社会福祉士としての挑戦

2021年4月施行の社会福祉法の改正において、地域福祉を推進する際の目指すべき社会像（理念）として、「地域住民が互いを尊重し、個々の参加と共に生きることを基盤とした地域共生社会」の実現が明記され、はや4年目に突入しようとしています。

今年の2月の社会福祉士国家試験では、新カリキュラムに移行して初めての試験が行われました。新カリキュラムにおけるソーシャルワーク実践は、ジェネラリストソーシャルワークが基本になっています。

地域共生社会の実現に向けては、このジェネラリストソーシャルワークの考え方が不可欠であり、いわゆるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践を分断せずに総体として実践していくことが重要です。

私たちは、社会構造の変遷とともに、クライアントの地域活動への参加支援や住民を主体とした地域づくりの支援、また、個別の実践においても所属する機関の機能に応じて、領域や対象別に区分された支援を行うのではなく、複雑で複合的な課題を抱えたクライアントやその世帯を丸ごと受け止める包括的・横断的支援の実践が求められています。

県民一人ひとりが自分らしく生きていける地域共生社会の実現のため、わたしたちはこれからも、専門職として身につけた知識や技術により、QOL（生活の質）とウェルビーイング（人としての幸せ）の向上のために実践を続けていきます。

おわりに、理事一同、本会の目的達成のために真摯に行動し、成果をあげるために尽力することを約束いたします。徳島県民及び会員みなさまのご理解、ご支援を賜りますよう今後ともよろしくお願いいたします。



会長 湯浅 雅志



一般社団法人 徳島県社会福祉士会

〒770-0943 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター3F

TEL 088-678-8041 FAX 088-678-8042

E-Mail info-tokushima@tacsw.jp URL <https://www.tacsw.jp/>

QRコード



四国地区社会福祉士合同研修会



12月7日（土）・8日（日）の二日間にわたり、四国地区社会福祉士合同研修会が高知県（高知県立大学 永国寺キャンパス）で行われ、当日は、四国4県から、100名を超える参加がありました。1日目は、「それぞれの立場から見た地域共生社会」をテーマに実践報告が行われ、2日目は分科会が行われました。徳島県からは、2名の方が分科会で実践報告をされました。

「認知症で寝たきりの母と他者の介入拒絶する息子への関わり」

湯浅 雅志

第1分科会「相談援助」のテーマは支援拒否のある方へのアプローチでした。

私は、認知症で寝たきりの母と他者の介入を拒絶する息子への関わりと題して、クライアントである母に介入するために、息子にどのように介入するか、保健師と役割分担し本人中心主義のアプローチで関わることで信頼関係が構築でき、適切な支援につながったことを報告させていただきました。

他に2人の方が発表し児童福祉に関する親へのアプローチや支援困難と思われる54事例を調査し整理した対応方法についてなど、どの発表も分野を超えて実践のヒントを得ることができました。



「自殺再度企図者に対するジレンマと医療保障」

小谷 尚子

精神保健福祉領域では、権利侵害が起きやすいと言われていて、報道でも度々取りざたされています。私が参加した分科会は、権利侵害に対しての取り組みを報告する「権利擁護」の分科会でした。

私は、「自殺再企図者に対するジレンマと医療保障」と題して、自殺再企図者への支援をする際の陰性感情やそれに伴った行動化に対して、支援者としての当事者主体の心構えを持ってかわることについて報告しました。参加されていた方々とも、自殺再企図者に必要な医療を適切に提供する必要性について共有できたのではないかと感じました。



2025年 12月13日（土）・14日（日）

開催決定！

2025年の四国地区社会福祉士合同研修会は、徳島県での開催となっております。

テーマは「いのち・権利・暮らしをまもり、支えるソーシャルワークから人と地域をつなぐ縁結び社会へ」をテーマに2日間行います。

基調講演では、大阪府豊中市社会福祉協議会の勝部麗子さんを予定しています。

また、分科会では、生活構造、福祉経営、実践研究の3つをテーマとして行います。

徳島県での貴重な機会となりますので、皆様、是非ご参加をお願いいたします！



基調講演会 講師

勝部麗子さんが
お越しくださいます！

勝部麗子氏 プロフィール

大阪府豊中市社会福祉協議会事務局長。
1987年に豊中市社会福祉協議会に入職。
2004年に地域福祉計画を市と共同で作成、全国で第1号のコミュニティソーシャルワーカーになる。地域住民の力を集めながら数々の先進的な取り組みに挑戦。その活動は府や国の地域福祉のモデルとして拡大展開されてきた。NHKドラマ「サイレント・プア」のモデルであり「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演。

実行委員募集

一緒に学びの場、交流の場を創りあげて
いただける仲間を募集しています！

能登半島地震における被災者見守り相談活動報告

災害対策委員会 委員長 荻田 靖子

令和6年能登半島地震発生後、震災前とは大きく異なった環境で生活をしている被災者に対して、安心して日常生活を営むことができるよう孤立・関連死防止のための見守り支援や日常生活上の相談を行い、各関連相談機関につなぐ等の支援活動を石川県社会福祉協議会が行っている。その活動に石川県社会福祉士会が日本社会福祉士会及び各都道府県社会福祉士会と連携して、社会福祉士の派遣を実施している。徳島県からもこれまでに4名が参加し、私は9月30日～10月2日の3日間活動を行った。

活動内容

金沢市内のみなし仮設住宅や公営住宅にお住まいの被災者約3,000世帯宅を訪問し、見守り支援や日常生活上の相談、専門機関へのつなぎ支援を行う。

活動拠点

金沢市社会福祉協議会「石川県地域支え合いセンター金沢」

1日の流れ

活動時間は9時～17時。16時には支え合いセンターに戻り記録の整理、日報作成、気になる方の報告を行う。一日に11～15件ほどのリストが渡されるが、気になる方の訪問は時間をかけるため全部を回れないことが多かった。

活動①

初参加者は経験者とのペアで動くため、詳細はペアから説明を受ける。私は石川県社会福祉士会が準備している宿泊所を利用したので、他県の参加者から情報を得ることができ、初日でも分からないことは無かった。参加直前の9月21日に豪雨災害が発生していたため、地震と豪雨の二重被災を受けた方が多い輪島・珠洲市から避難されている方を中心に訪問を行った。

活動②

移動には軽自動車のリース車両を使用。訪問リストと共に携帯電話・タブレットを渡され、グーグルマップに登録してから出かける。慣れない土地のうえ、タブレット頼りでは方角が分からなくなることもあり、ペアの方と四苦八苦しながらの訪問だった。

活動の振り返り

復興に向け公費解体を進めている矢先の豪雨災害で再建計画が頓挫した方、水道が復旧したので住宅の片付けを始めたが豪雨でまた断水、道路も通れず再建が進まないという方、朝市通りにあった自宅や店舗が焼失し、身一つでみなし仮設住宅に来たという方など、それぞれの壮絶な体験を聞きながらできるだけ心情に寄り添うことを心がけた。一方、クラウドファンディングを活用し事業再開に向けて歩み出した方、以前経営していた塾を避難先で行い子供たちの居場所作りに繋がりたいと活動を始めた方などもいた。

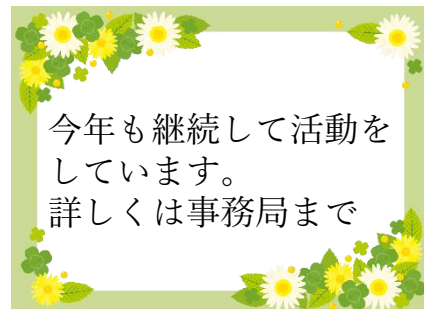
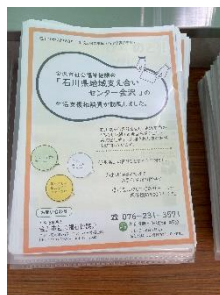
面談した方の中には「自分より他に大変な人がいる」と自分の体験や気持ちを吐露することができない方、慣れない環境で周囲との人間関係が構築できていない方、面談中に泣き出す方や怒りをぶつける方もおり、被災者の精神的な葛藤やダメージの深さを実感するとともに、発災から9か月を経てそれぞれの被災者の環境や心情に格差を感じた。

3日間だけの活動であったが、見守り支援活動は一人ひとりに心を寄せて自立を支援することで普段の業務と変わらないが、被災者支援においては普段以上に洞察力が必要だと感じた。刻々と変化する支援体制に対して情報収集力も必要だった。支え合いセンターにおいては全国から日替わりで参加者が来るなか、物品や資料、初日から直ぐ活動できるよう体制を整えて頂き感謝するとともに、そのノウハウを学ぶ必要があると思った。

今回お会いした方々の気持ちが安らぐ日が早く訪れるとともに、全ての被災者の一日も早い復興を祈念したい。



左から2番目が筆者



リーガルソーシャルワーク委員会

委員長 湯浅 雅志

リーガルソーシャルワーク委員会では、リーガルソーシャルワークに関心を持つ会員を広く募り、関係機関や資源の概要、司法の基礎、更生支援、犯罪被害者支援などについて学んだり、2020年11月30日に徳島弁護士会との間で締結した「刑事弁護における社会福祉士の紹介に関する協定書」（※2023年8月22日付けで改定し、更生支援計画の策定等の報酬額や報酬の上限額が引き上げられた）に基づいた社会福祉士派遣要請に即応できるよう、人材育成を行っていきたいと考えております。

現在はリーガルソーシャルワーク委員会では実際に、刑事弁護を行った社会福祉士から新たに加入していただいた社会福祉士との勉強会をオンライン等で開催しております。

手探りで進めている部分が多いですが、さまざまな事情により福祉サービスの利用にたどり着かなかった方に、手を差し伸べることができるようになります。この関わりが、再犯や非行を未然に防止し、また、立ち直りを支えていくことにも繋がっていくと考えます。

会員の皆様には、「リーガルソーシャルワーク」にまずは興味をもって頂き、現職場や福祉的活動のなかで、「何ができるだろう…」と考えて頂ければと思います。

関心のある会員は、事務局までご連絡ください。



相談活動委員会



委員長 湯浅 雅志

相談活動委員会では、相談援助を行う専門職としての知識や技術を磨くための活動の場や個々のスキルアップ、会員間連携の促進や実践の蓄積などをおとした組織の活性化などを目的に活動しています。

メインの活動としては、定期的にソーシャルワーク実践学習会と称して、県内各分野で活躍する会員等の方々に、実践事例や取り組み、ソーシャルワーカーとして興味関心があることなどの話題を提供していただき、スキルアップや人脈づくり、悩みを解消する機会となっております。

現在はオンライン開催が多く、気軽にご参加いただけます。

また、社会福祉士でなくてもソーシャルワークに興味関心のある方はどなたでもご参加いただけます。その他にも徳島県医療ソーシャルワーカー協会や徳島県精神保健福祉士協会、社会福祉士養成校等と連携してソーシャルワーカーデーの開催なども行っております。

こども家庭福祉委員会

委員長 漆原 文子



こども家庭福祉委員会では、毎月第1水曜日19時から21時までの間に委員会を事務局で開催し、昨年度に引き続き、SSW（スクールソーシャルワーカー）の養成をメインに研修会を開催しています。

主に日本社会福祉士会が刊行した「子ども家庭支援アセスメントガイドブック」を活用しながら、「子どもの最善の利益」を実現するために、スクールソーシャルワーク実践のあり方について、メンバーの体験談も交えながら研修会を実施しています。委員会メンバー以外にも参加していただければとの思いから、広く会員の方に参加を呼びかけ、会場参加とオンライン参加を併用しています。学校現場では、いじめ、虐待、不登校、自殺、非行、生活困窮など子どもの権利を侵害する様々な問題が生じています。子どもの権利を守るSSWの活動範囲も小・中学校から高校にまで広がってきています。SSWの活動に興味関心を持たれた方は是非、研修会にご参加ください。

また、今年度から新たな認定資格である「こども家庭ソーシャルワーカー」が創設され、本年3月に第一回認定試験が実施されました。こども家庭ソーシャルワーカーについても引き続き状況把握を行い、情報発信していきます。



ハイブリッドで行われている研修会



権利擁護センターぱあとなあ徳島

権利擁護センターぱあとなあ徳島では、成年後見人養成研修を修了した会員（2024年12月末現在：45名）が専門性を活かして行う後見活動への支援、権利擁護及び成年後見制度に関する広報啓発・相談活動、行政・専門職団体・社会福祉協議会等の関係機関との連携による権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向けた取り組み等を行っています。

今後ますます成年後見制度の利用ニーズは高まるなかで、意思決定支援や身上保護を中心とした本人らしい生活と人生を支える権利擁護支援を地域で実践し続けるため、ぱあとなあ徳島の機能強化や会員のスキルアップに一層取り組んでいきたいと考えています。

運営委員長 西條志野

事業内容

- 権利擁護に関する相談事業
- 専門職他団体等との合同研修の開催
- 地域連携ネットワークの構築に向けた取組への参画
- 成年後見制度や権利擁護に関する会議・研修等への派遣
- 成年後見人等候補者の養成に関する事業
- 成年後見人等候補者の名簿登録に関する事業
- 家庭裁判所等からの依頼による成年後見人等候補者の推薦
- 定例会の開催
- 後見活動に関する業務監査についての体制整備と実施
- 「会員のしおり」の作成
- ML等を活用した情報提供や会員相互支援の強化
- 報酬助成事業の実施
- 県民・専門職等からの苦情・意見・要望への対応強化

2024年度 活動の一部紹介

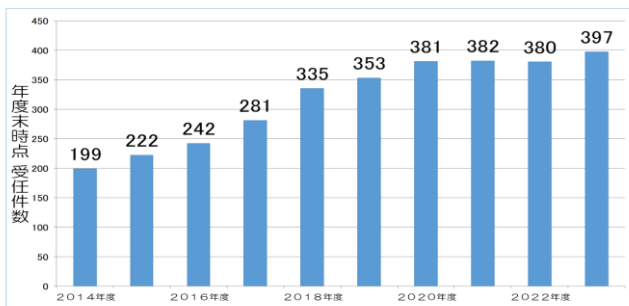
業務監査

過去の不正事件への反省も踏まえ、① 後見活動の適正性（不正防止とリスク低減）② 会員の活動状況の把握と課題解決のための支援実施を目的として、業務監査を実施しています。

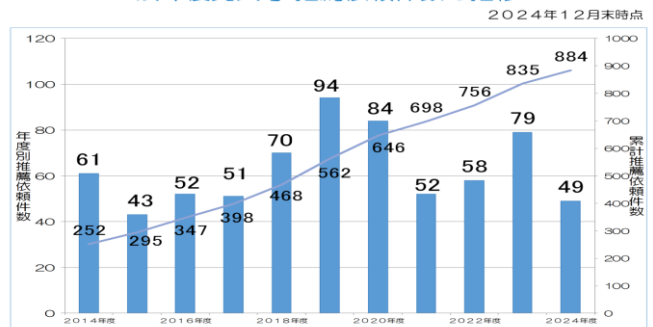
ぱあとなあ徳島における内部監査としては、これまで行ってきた活動報告書の全件確認に加え、全会員との個人面談を順次実施することとしています。

また、2023年7月に施行した「ぱあとなあ徳島業務監査委員会設置運営規程」に基づき業務監査委員会を設置し、委員7名（外部委員5名）を委嘱しました。2024年8月には、ぱあとなあ徳島業務監査委員会を開催し、ぱあとなあ徳島の事業運営及び会員の後見業務について、指導及び助言をいただきました。

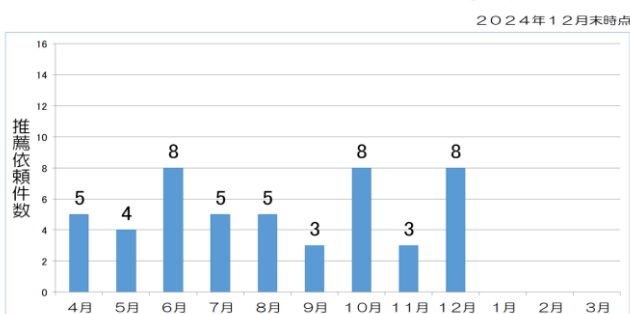
《グラフ1》 権利擁護センターぱあとなあ徳島
成年後見人等 受任件数の推移



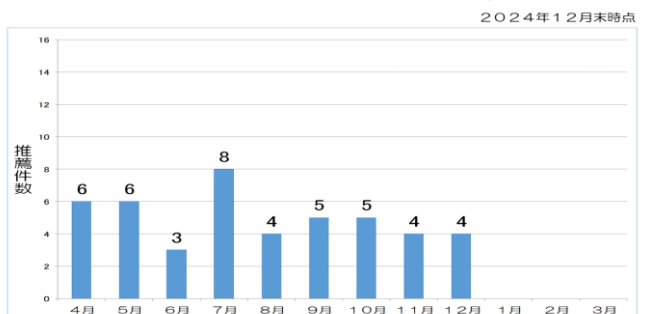
《グラフ2》 権利擁護センターぱあとなあ徳島
成年後見人等 推薦依頼件数の推移



《グラフ3》 権利擁護センターぱあとなあ徳島
2024年度 家庭裁判所からの推薦依頼件数



《グラフ4》 権利擁護センターぱあとなあ徳島
2024年度 家庭裁判所への推薦件数



国家資格等取得支援委員会

委員長 森泉 摩州子



社会福祉士全国統一模擬試験を10月に実施しました。第37回（2025年）国家試験は新カリキュラムによる最初の試験となり、模擬試験の出題内容に関心が高まりました。「これまでの勉強で良かったのか」「過去問題との違いは」など様々な思いを感じ、本番に備える試験でした。試験当日は万全な体調で臨まれることを願いました。

国家試験対策講座は、予定の受講人数に達しなかったため開催を中止しました。仕事と国家試験受験の両立は厳しく、開催日や講座内容の見直しも必要かと次年度に向けて検討したいと思います。一方国家試験の受験者は減少傾向にあり、ソーシャルワーカーの仕事に魅力があるのか、必要とされているのかが問われているようにも思います。ますます会員の皆様の経験や知識が必要です。ご協力をお願いいたします。

生涯研修センター

委員長 杉本 亜矢子

2024年度、基礎研修Ⅰ 5名、Ⅱ 9名、Ⅲ 7名の方が受講され、次のステージへ進めます。受講生の自己研鑽への熱意を応援すべく、受講生の方にもご協力をいただきながら、無事各課程を修了することができました。心から感謝申し上げます。

基礎研修課程は、社会福祉士として自らの専門職向上や質の担保をしていく機会として、是非、活用していただけたらと思います。



基礎研修Ⅰ受講者の皆さん



基礎研修Ⅱ受講者の皆さん

基礎研修

基礎研修受講生インタビュー

基礎研修Ⅲ修了生 健生病院 枡田榮子さんにインタビューしました！

Q1 基礎研修を受講した理由を教えてください。

国家試験に合格した時点から社会福祉士の人生がスタートしました。もちろん業務や経験することにより成長していくことが可能ですが、いつでも相談に乗れるように、また力になれるように常に学習しなければいけないと思ったので研修を受けることにしました。

どんなことで相談したいのか相手の立場になって考え、寄り添える社会福祉士になりたいと思ったからです。

Q2 印象に残っている研修を教えてください。

基礎研修Ⅱで研究をしたことです。実践研究のテーマ設定・社会調査・考察・発表までがとても大変でした。やはりパソコンで表などの作成が難しかったです。しかしいろいろパソコンの操作を知ることができたのでよかったです。

何より同じメンバーで最後まで一緒だったのが心強かったです。昼休憩にはカレーを食べに行ってお悩みなど同じ視点で話し合えたことがよかったです。社会福祉士は一人ではできることは限られているので、顔が見える関係はすごく大切と考えているので、たくさんの知り合いができたことはソーシャルワークには欠かせないことだと思います。

Q3 これからの目標を教えてください。

S V（スーパービジョン）や必要な単位を学習し認定社会福祉士を習得したいです。ある程度の年数がたつと経験や思い込みで行動する可能性が出てくると思います。そこでS Vを受けることにより正しい方向を指摘してもらい、相談できる環境が必要と思ったためです。

クライアントの目をみてゆっくり話を聴くことが日々大切だと思っています。多職種で相談し倫理綱領を守りながらソーシャルワークを実践していきたいです。



基礎研修Ⅲ受講者の皆さん





社会福祉士になって、大学卒業と同時に現在の職場に就職し気づけば結婚してアラフォーに足を踏み入れようとしています。リレー記事のお話を頂いて、正直、何を書こうか、全然思いつきませんでした。かわいい二人の息子に囲まれて、仕事と子育てに奮闘している日々で、ふと思い出に残っているのが長男の幼稚園時代のお弁当です。

わが子通っていた幼稚園は毎週月、火曜日がお弁当でした。ワーママにとって朝は戦争、お弁当なんて…と正直不安でした。かわいいわが子のためにと、最初は朝5時に起きて可愛い卵焼きを焼き、おにぎりに海苔で顔を描いてました。本人からあまり感想はなかったものの、毎日空っぽで帰ってくるお弁当が楽しみでした。ある日、自信作だったまっくろくろすけ弁当がおかばんの中でひっくり返って顔がバラバラになって、「おもしろかった！みんな笑ってた！」と長男が話してくれました。あれだけ努力してもひっくり返っているのかと絶望したのは言うまでもありません。それでも、楽しんでいるならと作り続けたプチデコ弁当。長男から卒園前の最後のお弁当の日に空っぽのお弁当と一緒に「ままのたまごやきがせかいいちだいすき。ありがとう。」のメッセージ。2年間、いろいろなお弁当を作り続けた気持ちは少しは伝わっていたのかと感動したものでした。

記念に残していたお弁当の記録を見返すと、自己満足の日々だったけど、長男を思って作る日々は愛おしい時間だったと思います。

現在の幼稚園児の次男は極度の偏食で彩ったものを食べてもらえませんが、次男が「食べられた、頑張ったよ」と言ってくれることを一緒に喜んでいる日々です。人を大切に思う気持ちがお弁当を通して、息子たちに伝わっていることを信じ、お弁当を作り続ける毎日です。また、社会福祉士として働く母の背中を自信をもって見せていきたいと思っています。

**働くソーシャルワーカーママ、
頑張ってくださいね！**



会

員

紹

介

VOL. 4

高松保護観察所 由良徹さん

サコウジュ？ニチジ？クヘン？…。数年前の私には、まるで別世界の用語でした。私は、大学で法律を学び、卒業後は、徳島市内の小・中学校での勤務を経て、法務省職員に採用され、平成19年に保護観察官に補職されました。法務省内の人事交流で少年院の法務教官として勤務した経験もあります。折々で福祉に関する研修を受けてきましたが、実践の知識レベルでは到底なく、制度やサービスの理解も不十分でした。罪を犯した人らの社会復帰支援を進める中で、福祉用語を自在に操り、知識を駆使し、福祉サービスの調整を進める地域生活定着支援センターや刑務所等に勤務する社会福祉士、保護司としても活動する社会福祉士や同僚の社会福祉士の姿を見て、その豊富な知識量、実践力、スキルに大いに触発され、いつしか「社会福祉士になる」ことが私の目標となり、一念発起して専門学校生となりました。休みの日にレポート作成やスクーリングに追われる日々でしたが、新たな知識や技能を習得できている喜びがありました。

社会福祉士国家試験の専門科目ともなっている「更生保護制度」は、罪を犯した人らが、地域社会の中で更生できるよう、国の公務員である保護観察官と民間篤志家である保護司とが協働して指導や援助を行う制度ですが、「地域の生活者」でもある罪を犯した人らの中には、高齢、障がい、生活困窮、孤立・孤独などの生きづらさを抱えた人が数多くおり、その「更生」（再犯防止と立ち直り）のための福祉的支援が必要不可欠なケースが年々増加してきています。

私が受講している基礎研修のメンバーの所属は、行政、高齢、児童、医療など多種多様であり、研修や交流の機会を通して、毎回新たな気付きが得られ、大きな刺激を受けています。そのことが、社会福祉士としての視野を広げ、私自身の支援の幅と厚みを持たせ、自信と根拠を持った対応につながっている気がします。

今後も社会福祉士という名称に恥じないよう、研鑽に励んでいきたいと思っています。



ソーシャルワーカーデー2024inとくしま 報告



ソーシャルワーカーデーは、社会福祉士や精神保健福祉士などのソーシャルワーカーの活動を推進・普及する活動で、徳島県では、7月6日（土）に徳島県医療ソーシャルワーカー協会、徳島県精神保健福祉士協会との合同企画として開催し、ソーシャルワーカーとして働いている人だけでなく、大学生や違う分野で働いている人等、78名の参加がありました。

今年度は、様々な現場で働いている3人のソーシャルワーカーの方から活動報告がされた後、グループに分かれ「災害発生後のソーシャルワーカーとしてのアクションプラン」「発災前の準備できること」「平時からの他職種連携」について活発な話し合いが行われました。

参加者からの感想

- ・DWATという言葉は知っていたが、どのような活動、支援を行っているのかを聞くことができて貴重な経験でした。
- ・災害のニュースを見た時に、何かしたいけど何もできずにいたけど、できることがあると気がつきました。
- ・日々の災害対策だけでなく、要配慮者の支援について専門職でなくてもできることを考えていきたい。



徳島県社会福祉士会 2025年度予定

事業・研修名	開催時期	事業・研修名	開催時期
基礎研修Ⅱ・Ⅲ	6月～1月	国家試験対策講座	10月～11月
第33回定時総会	6月下旬	四国地区社会福祉士合同研修会	12月13・14日
第28回福祉実践セミナー	6月下旬	ぱあとなあ徳島名簿登録研修	3月上旬
ソーシャルワーカーデー	7月下旬	第29回福祉実践セミナー	3月下旬
基礎研修Ⅰ	9月～1月	社会福祉士だより29号発行	3月下旬
国家試験対策模試	10月上旬	第34回定時総会	3月下旬

相談活動委員会	ソーシャルワーク実践学習会	不定期
こども家庭福祉委員会	研修会	毎月第1水曜日
リーガルソーシャルワーク委員会	勉強会	不定期
権利擁護センター ぱあとなあ徳島	運営委員会 定例会	毎月第1火曜日 毎月1回
総務・広報委員会	編集委員会	不定期

編集後記

入会募集！

徳島県社会福祉士会だよりVOL.28をお読みいただきありがとうございます。「ゆとり（余裕）はありますか？」、基礎研修Ⅲで共に学ぶ仲間がかけてくれた温かい言葉です。様々なケースに取り組んでいる皆さんが心にゆとりをもって活動していただけるよう、県士会は知識や情報、人とのつながりの場などの提供に努めます。なお、30歳未満の方は、初年度入会金・会費が無料となっていますので、是非この機会にご入会してください。（編集委員：縄井未佳）

【発行責任者】湯浅 雅志

【編集】一般社団法人徳島県社会福祉士会総務・広報委員会